

香川県における 産業保健活動の現在価値/限界分析と その活性化に関する研究

～縦断的検討を踏まえて～

主任研究者	武田則昭	川崎医療福祉大学教授 香川産業保健推進センター相談員
共同研究者	竹林治朗	香川産業保健推進センター所長
	川田久美	旭川荘情報支援本部主任研究員
	藤井智恵子	香川産業保健推進センター相談員
	高口眞一郎	香川産業保健推進センター相談員
	久保晃信	芝本英博 高德修一、他 旭川荘医療センター

研究の背景

- 平成17年度において、産業保健活動を中心に平成10年度（以下、平成を略）とほぼ同様のアンケート内容、対象者（産業医、産業看護職、衛生管理者）で調査を行った。
- 今回、10、17年度両データについて、産業医活動状況等の類似点、相違点に焦点を当てて相互比較を行い、静、動的な観点から分析し、10年近くに及ぶ産業保健活動の活性化施策の成果や産業保健活動の現状（現在価値とその限界）・課題等に関して検討したので、その一部について報告する。

- 平成10年度、香川県下の事業所において「産業医活動に関してその現状と課題、その効果的展開」について検討した。
- 現状と課題：産業医活動や産業保健活動に関して産業医と産業現場の間で、認識の相違や問題点を指摘
- 効果的展開：関連機関などの協力を得ながら、産業医、産業看護職、衛生管理者の連携を図り、産業保健活動を推進する。

対象と方法 (1)

■調査方法 (10、17年度)

【産業医】 医師会での認定産業医として登録をされている香川県下の医師381人

(10年度)、467人(17年度)に調査票を送付し、それぞれ168人(回収率44.1%)、187人(回収率40%)から回答があった。

【産業看護職】 産業看護部会に登録をされている香川県下の産業看護職90人全員(10年度)、71人全員(17年度)に調査票を送付し、54人(回収率60.0%)、37人(回収率57.7%)から回答があった。

【事業所衛生管理者】 かがわ衛生管理者の集いの会員159人全員(10年度)、205人全員(17年度)、香川県下50人以上の従業員の853事業所から無作為に100事業所(10、17年度共)を抽出・送付し、衛生管理者95人(回収率59.7%)、117人(回収率58.5%)、無作為の100人では39人(回収率39.0%)、58人(回収率58.0%)から回答があった。

■調査内容 後述 一配付資料(報告書 詳述)一

■統計的解析

統計的解析は、産業医、産業看護職、事業所衛生管理者のそれぞれについて、各項目の単

純集計を基本に集計した。複数回答については、各項目で単一回答に変換し、各事項で10、17年度でクロス集計を行った。

回答状況の違いについては、10、17年度で、クロス集計結果について独立2群(対応なし)の $m \times n$ 分割表によるカイ二乗(独立性の検定:母分散の比の検定と推定2群の分散が等し

対象と方法 (2)

■調査内容 (10、17年度)

共通事項：性、年齢、経験年数、勤務形態、企業の従業員数、会社の従業員数、平均年齢、会社の業種、有害業務の有無、従事している労働衛生担当スタッフ、衛生委員会出席、衛生委員会で話し合われた内容、衛生委員会

の出席できない理由、衛生委員会の内容がわからない理由、産業医活動に満足、検診以外の産業医活動の頻度、産業医が重点的に活動している分野・健康づくりの内容・活動して欲しい内容、産業医活動による事業所のメリット・デメリット、産業医活動を行う上での問題点、他 (17年度のみ) 産業医活動に対する景気の影響、将来活発になるか、他

【産業医】診療勤務形態、日常診療科目、産業医契約数、産業医契約事業所数、本来の仕事とのかねあい・問題・メリット・デメリット、収入に対する満足度、得られる収入、他

■回収率向上

10年度は一部の事業所にアンケート調査の再度依頼を行う程度であったが、17年度は調査票配布後、2週間前後で未回収者に協力依頼の文書送付（はがき送付産業医343件、看護職32件、事業場56件）、当センター情報誌ヘリス同時発送（衛生管理者96件、看護職2件）、電話（産業医6件）にて回収率向上を図った。

結果（抜粋）と考察

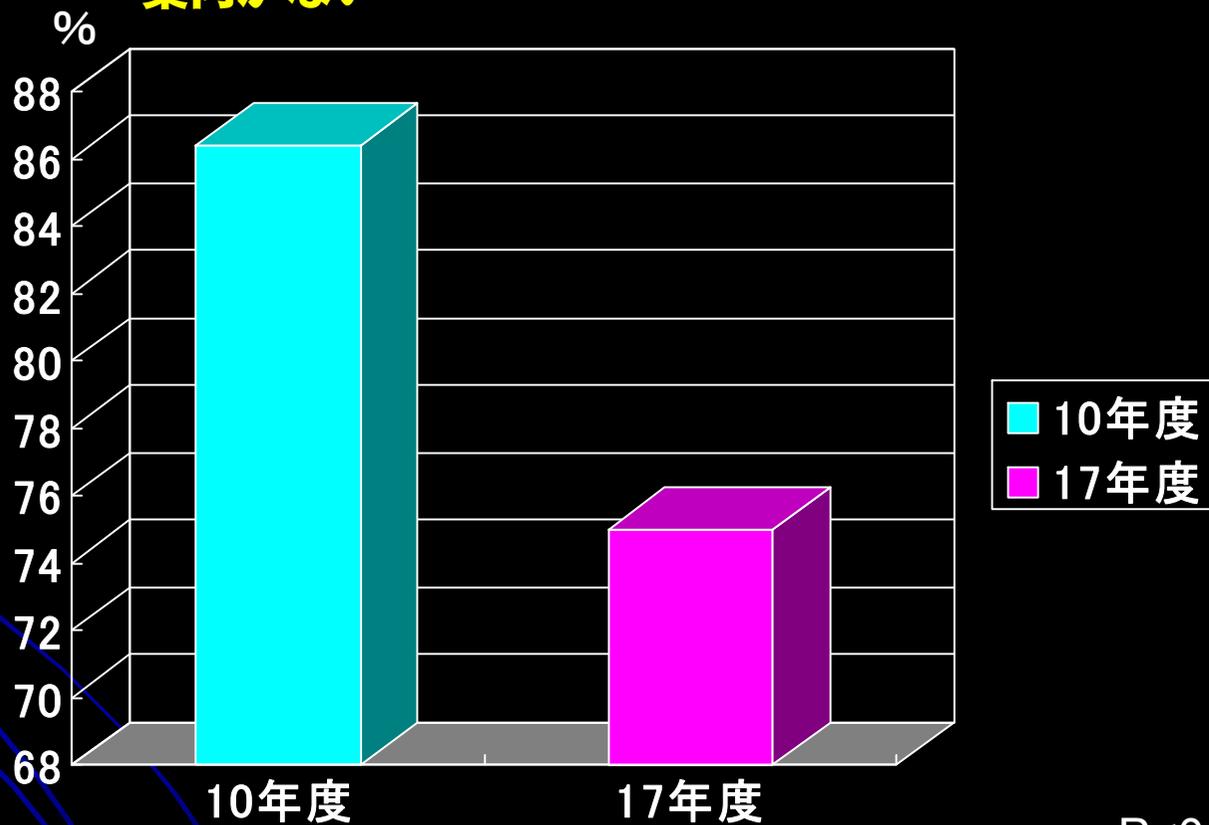
■回答者、事業所の背景(年度間の違い)

回答者（産業医、産業看護職、衛生管理者等）、事業所の内容、状況は、平成17年度は10年度に比較して、回答者で産業看護職ではやや「50～54歳」が多い、専属保健師が多く、嘱託看護師が少ないなど違いがみられた、従業員数では事業所で「1000人以上」がなくなり、200人以下の少数化が進んだこと等を除くと、事業所等の職種、産業医、衛生管理者等の背景について総じて大きな違いはないと推測された。

■衛生委員会に出席できない理由（複数回答、抜粋）

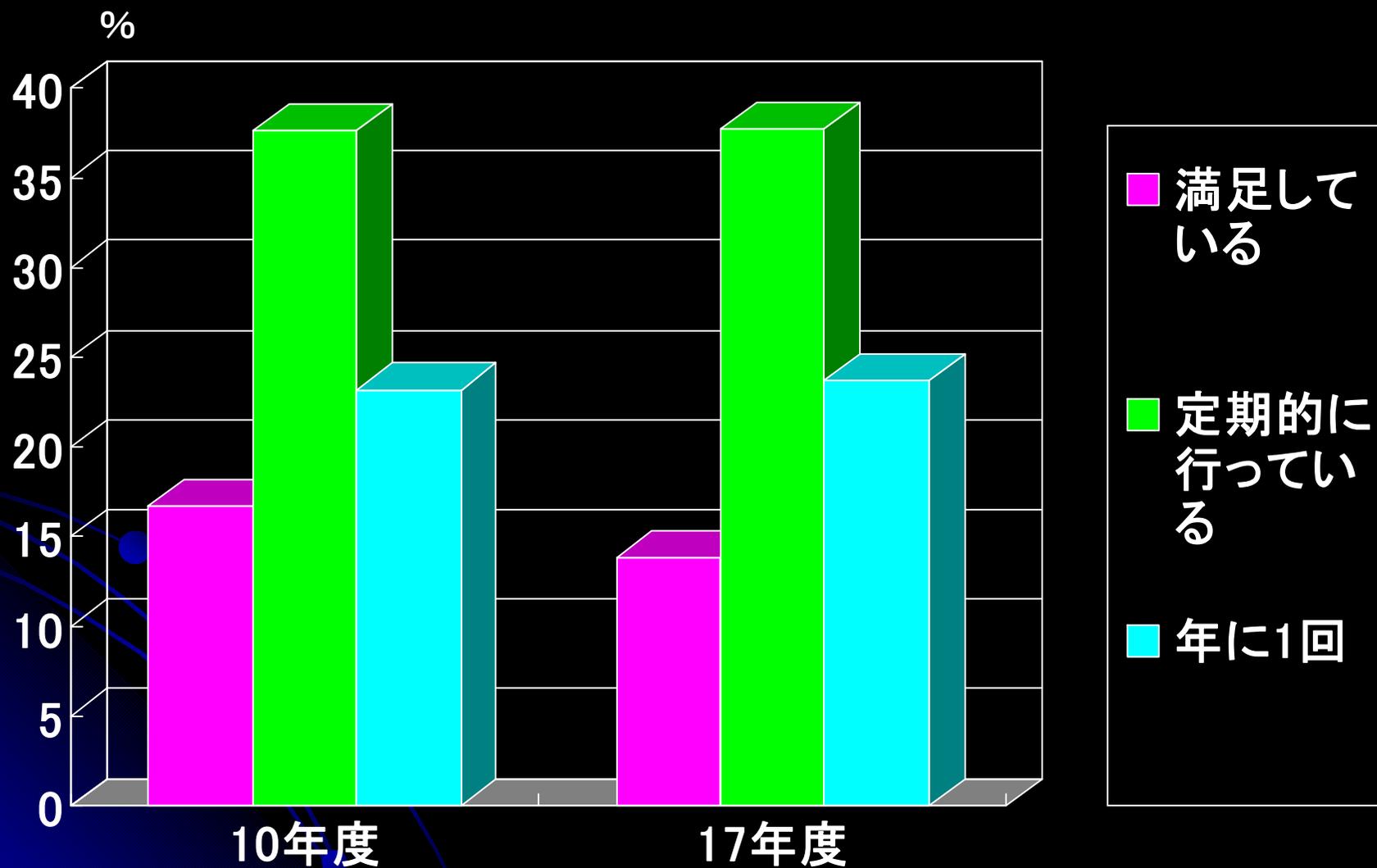
産業医

案内がない



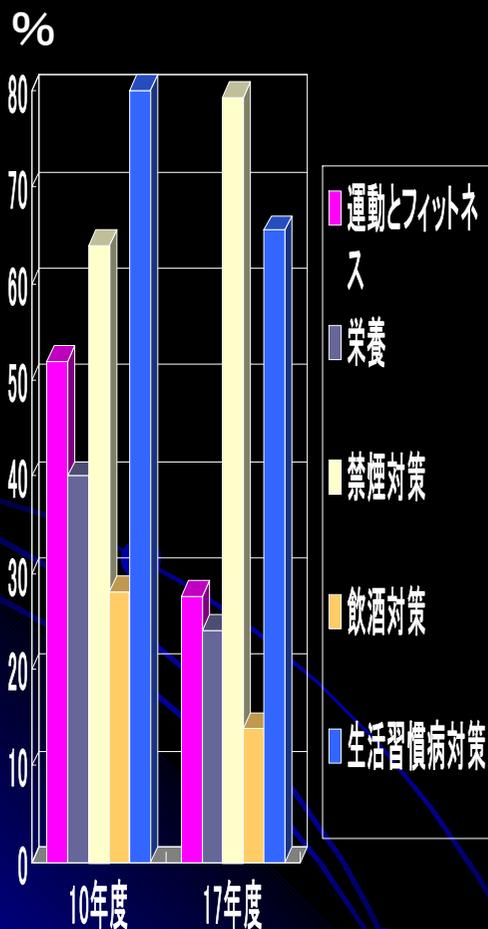
P<0.05

■産業医活動に満足、定期的に行っている、年に1回

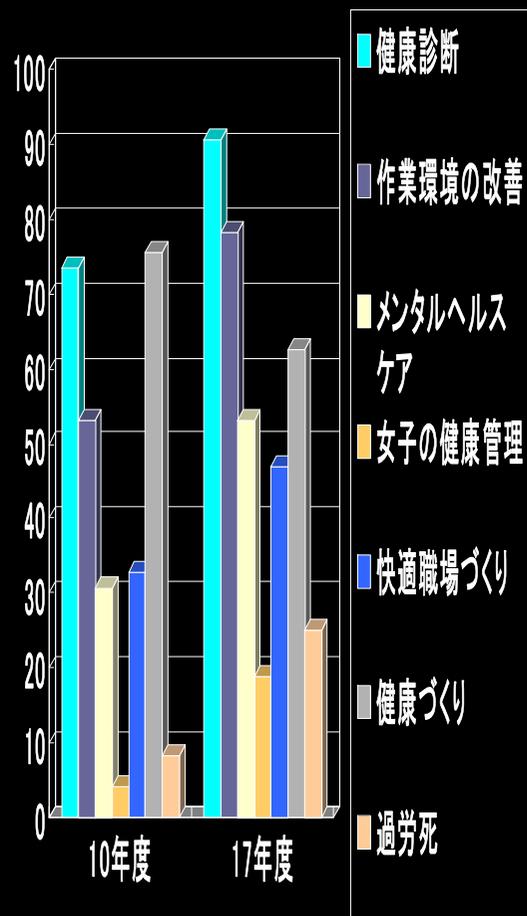


■ 衛生委員会で話し合われた内容（複数回答、抜粋）

産業医



産業看護職



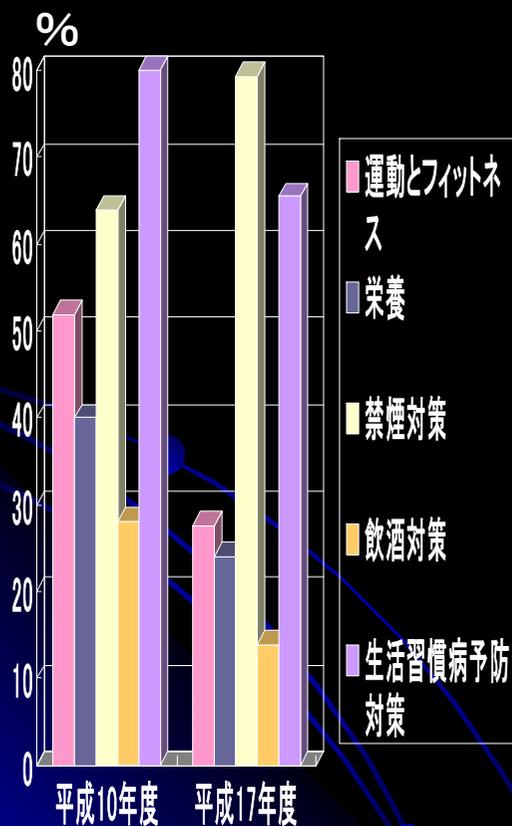
事業場

年度間の
違いが少ない

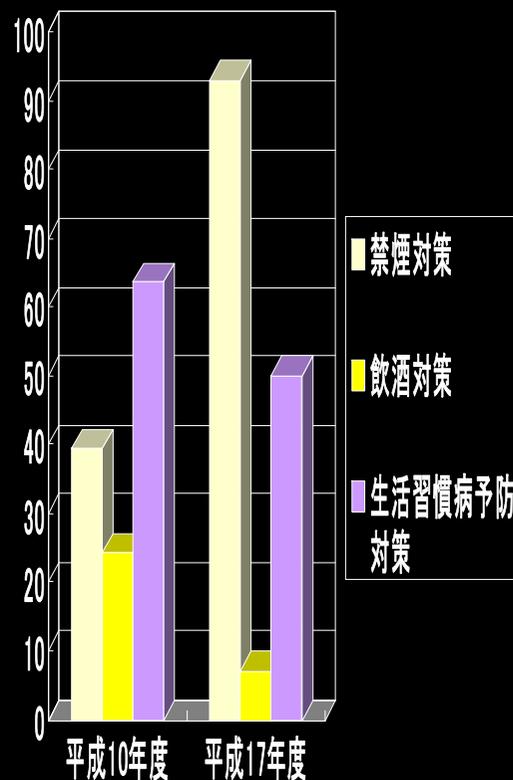
P<0.05

■ 衛生委員会で話し合われた健康づくりの内容 (複数回答、抜粋)

産業医



産業看護職

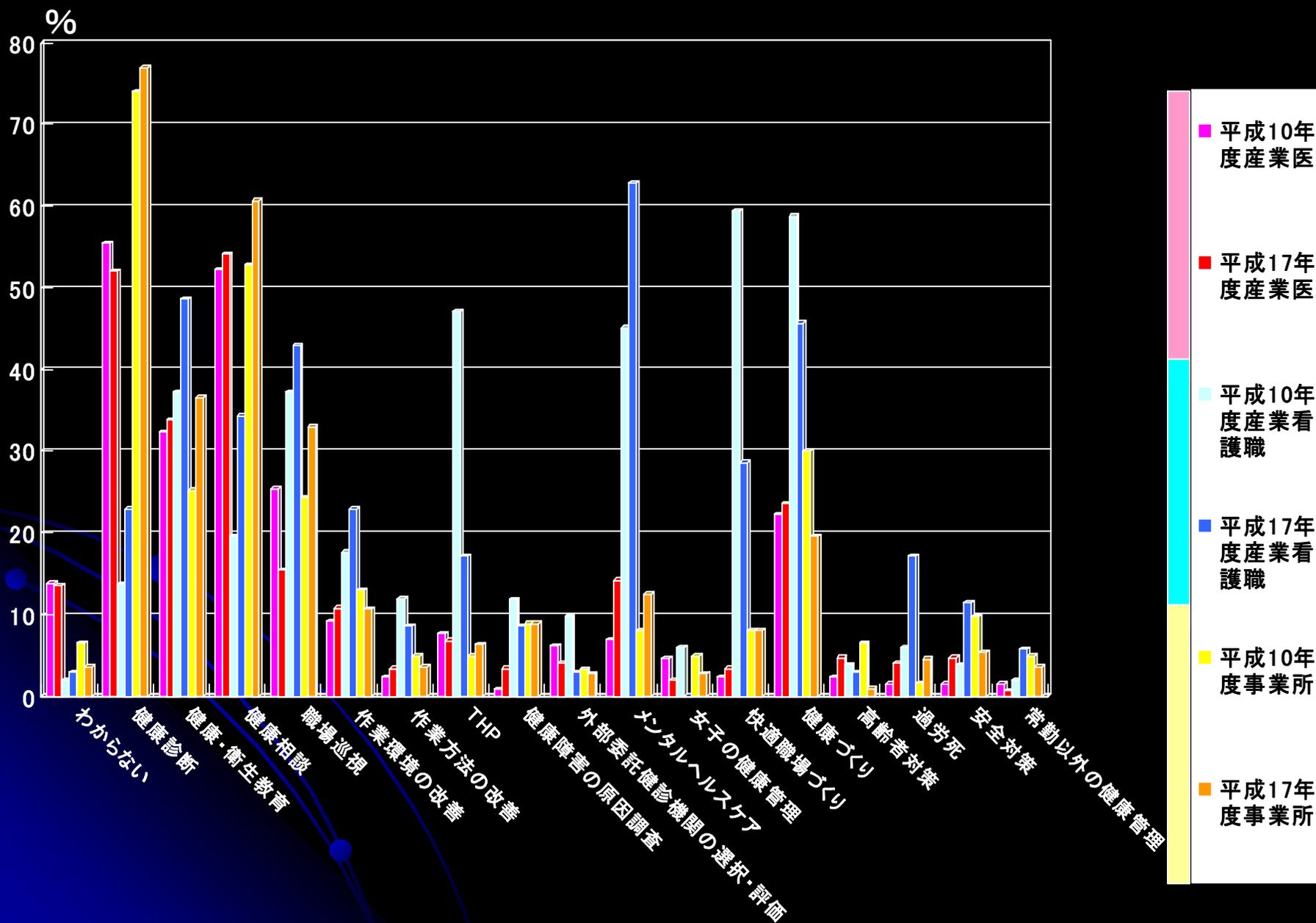


事業場

年度間の
違いが少ない

P<0.05

■現在、産業医が重点的に活動している分野（複数回答）

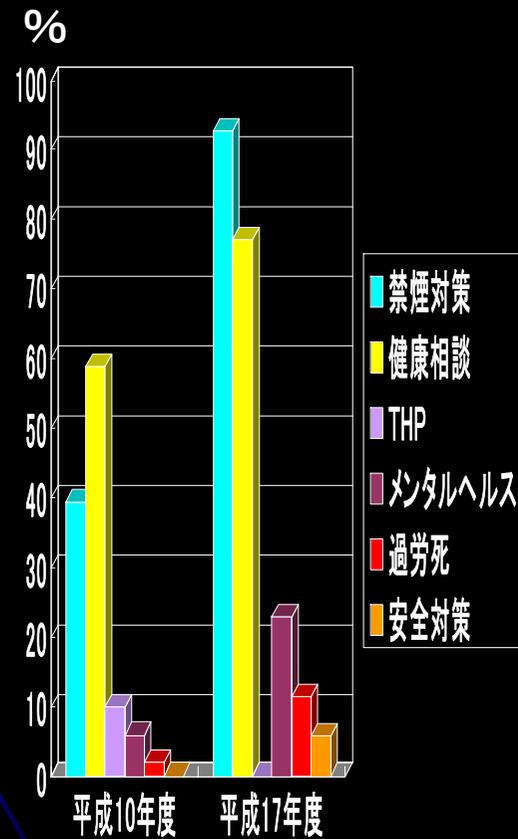


産業医が現在重点的に活動している分野 (複数回答、抜粋)

産業医

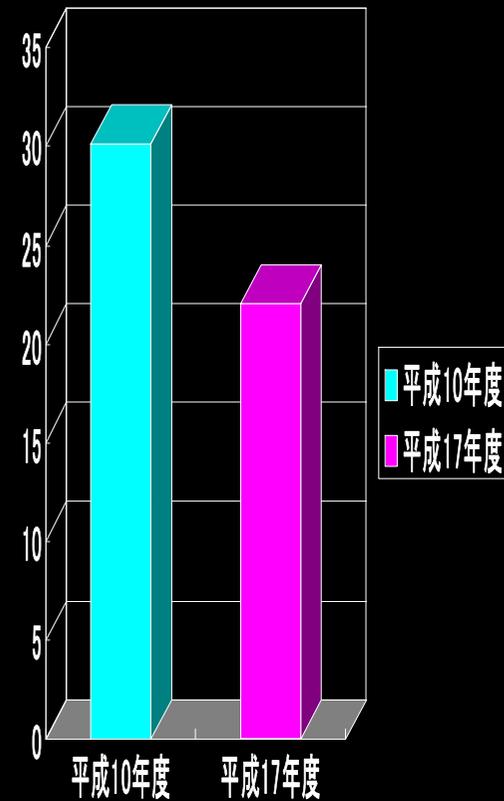
年度間の
違いが少ない

産業看護職



事業場

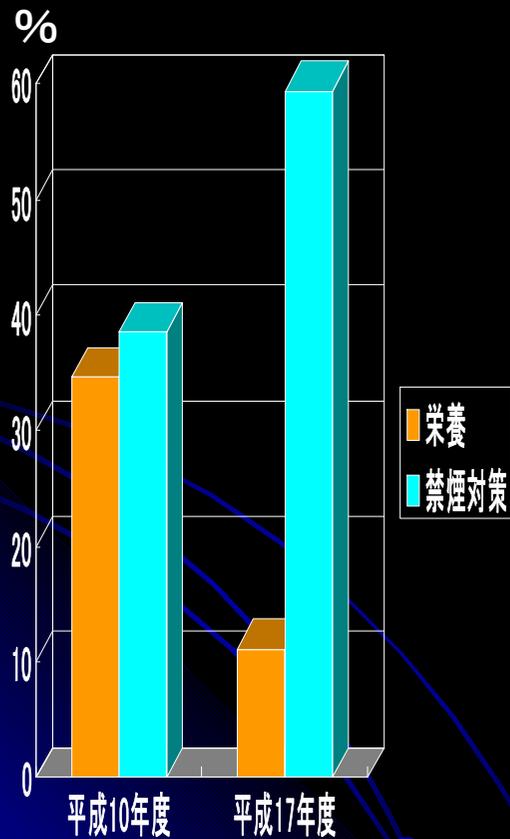
健康づくり



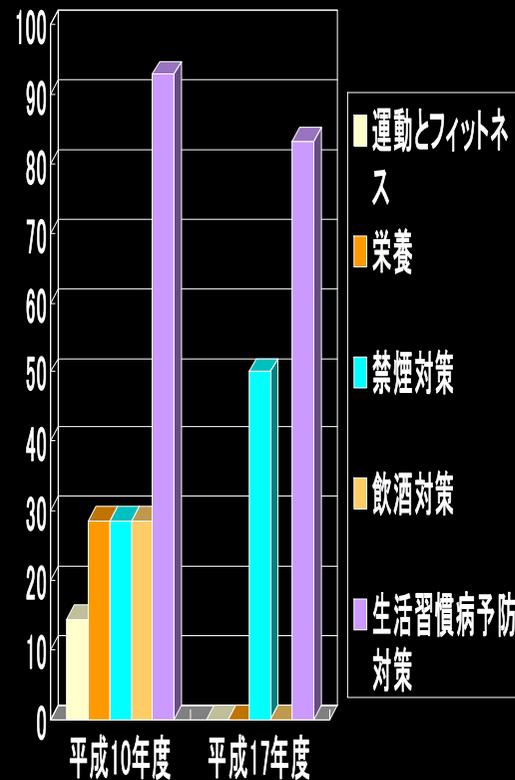
P<0.05

■産業医が現在、重点的に取り組んでいる健康づくりの内容 (複数回答、抜粋)

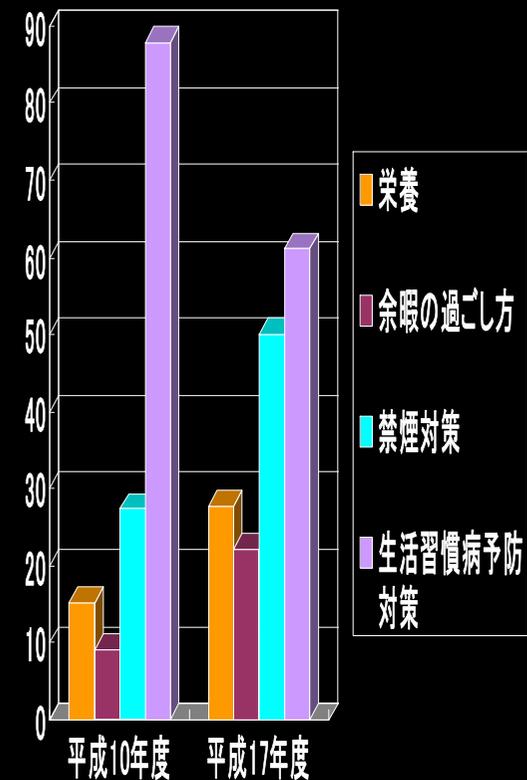
産業医



産業看護職



事業場



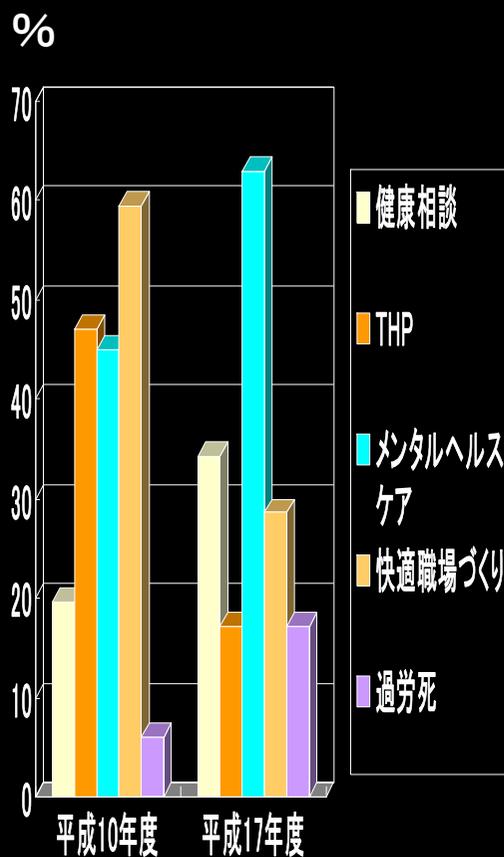
P<0.05

■ 今後、重点的に取り組みたい・組んで欲しい分野 (複数回答、抜粋)

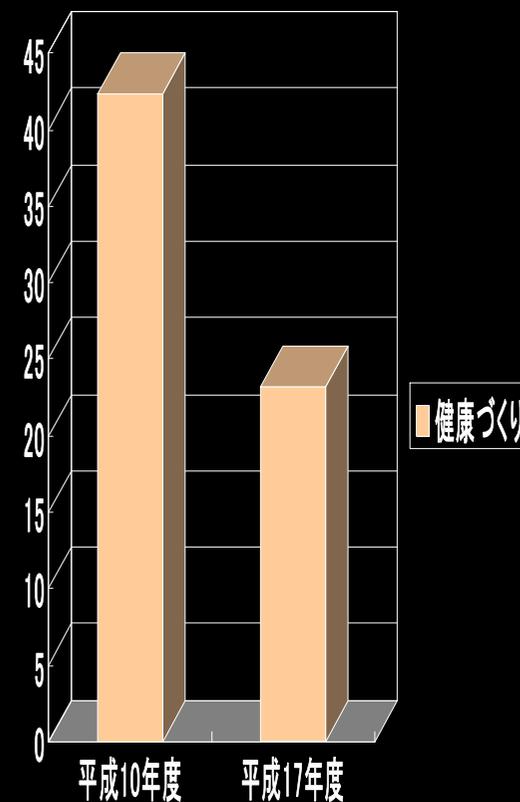
産業医

年度間の
違いが少ない

産業看護職



事業場



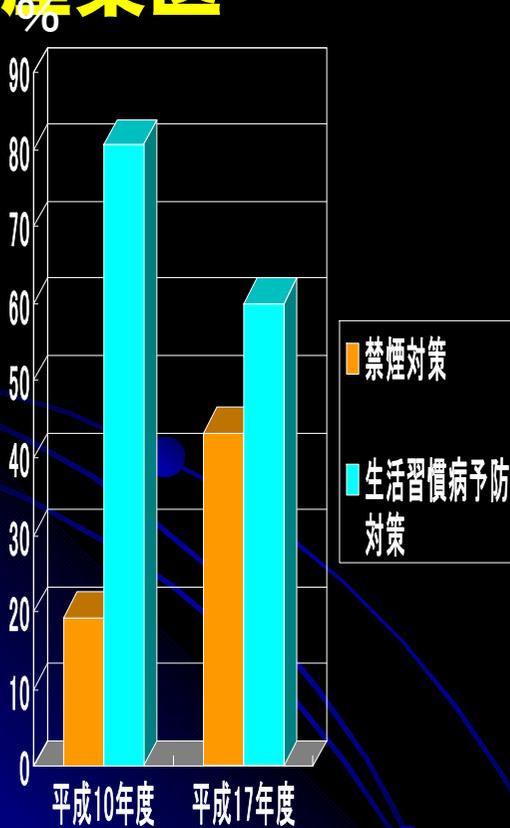
P<0.05

■産業医が今後、重点的に取り組みたい・組んで欲しい健康づくりの内容

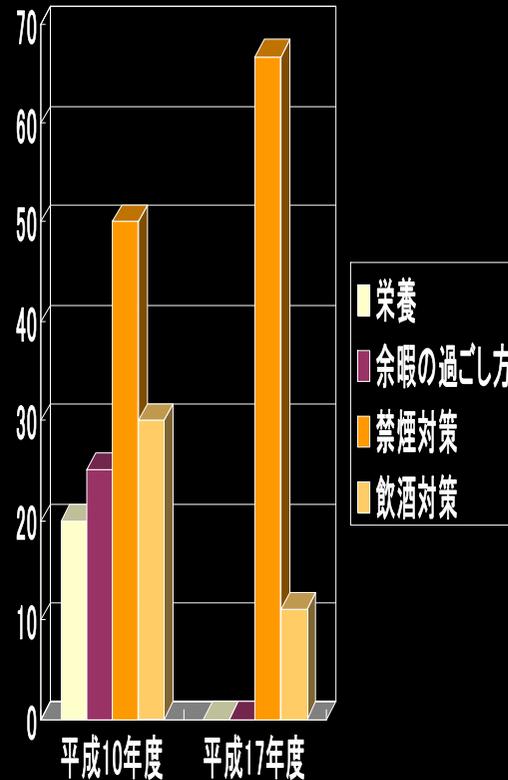
しい健康づくりの内容

(複数回答、抜粋)

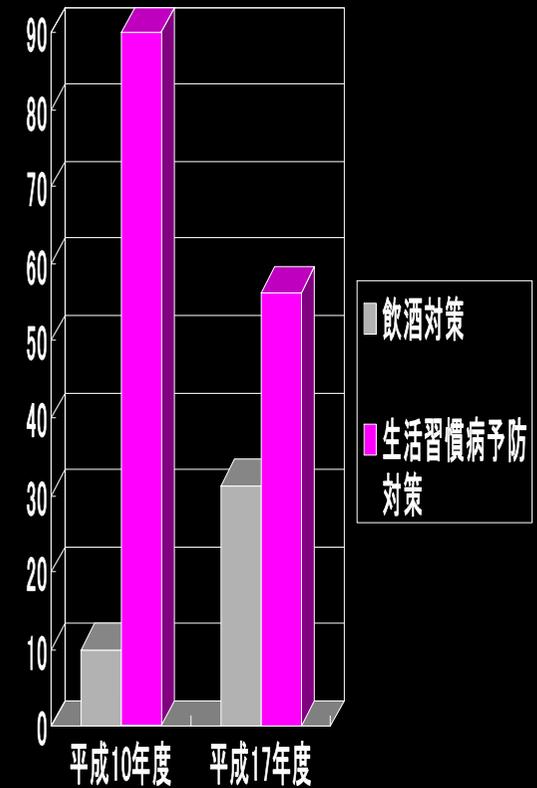
産業医



産業看護職



事業場



P<0.05

産業医活動によるメリット

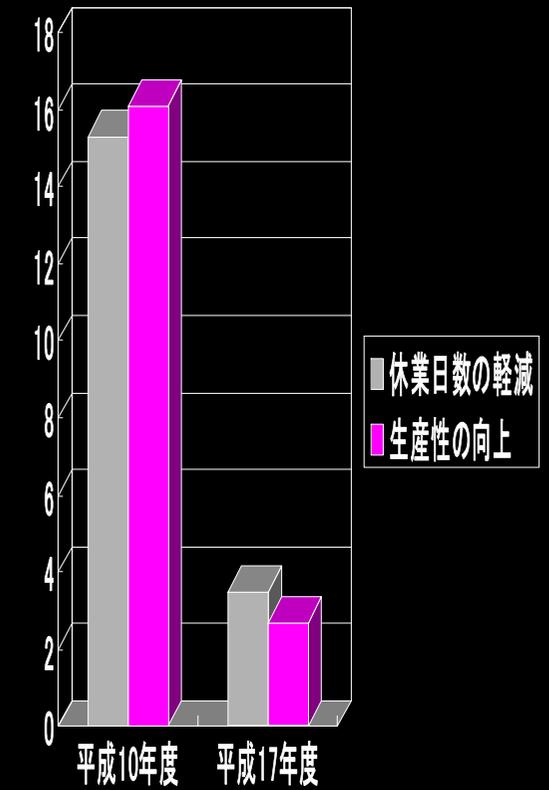
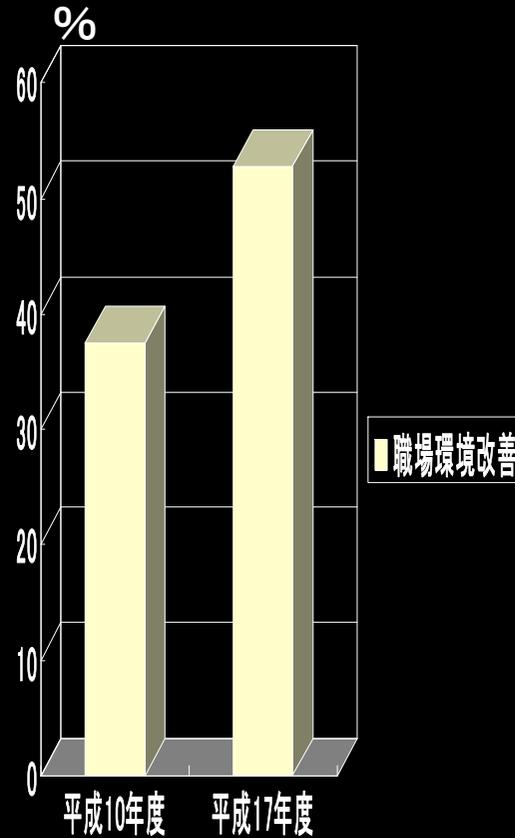
(複数回答、抜粋)

産業医

産業看護職

事業場

年度間の
違いが少ない



P<0.05

■産業医活動によるデメリット（複数回答、抜粋）

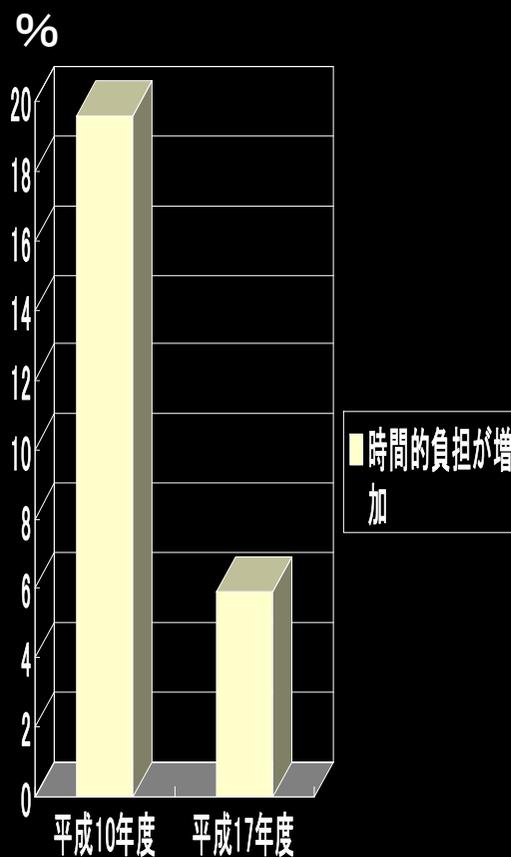
産業医

産業看護職

事業場

年度間の
違いが少ない

年度間の
違いが少ない



P<0.05

結 論

■産業保健活動、産業医活動について縦断的研究ならではの、香川県における「近年の動向、変化」が確認された。

■産業医の産業医活動への満足度は1割強、定期的な産業医活動は4割弱、その頻度は毎月以上は3割弱と、平成10、17年度を比較しても大きな変化はなく、産業（医）活動の現状、限界点といえる。

■事業所における重点活動分野・課題、取り組み内容、今後の予測・希望について、産業医、産業看護職、事業所衛生管理者等の間で、それぞれ異なっており、現状での限界点といえる。

健康づくりの内容では、禁煙対策が大きく注目される一方で、生活習慣病（成人病）の予防、運動とフィットネス、栄養の占める割合は低くなっており、現状といえる。将来的には、禁煙対策以外の事項についても、職場に特化した事項について、積極的な対策が講じられることが望まれる。

■安全委員会、衛生委員会等の活性化も含め、産業医がこれらに積極的に参加し、3管理全般に共通認識・目標設定が形成されるように双方向性の交流・意見／情報交換、教育啓発を増進する必要がある。